

- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の治水施設の整備を推進中。
- 寝屋川流域ではこれまでの施設整備効果により、**今回豪雨においても施設が無い場合に想定される約495haの内水浸水被害を軽減し、多大な効果を発揮！（浸水被害軽減効果額は約524億円）**
- ※ **令和6年度の浸水被害軽減効果は、11月2日時点で、約3,065億円と過去最高を記録！！（H16年度以降での総効果額は1兆8,638億円を突破！！）**
- しかしながら、**北部・南部地下河川ともに流入開始後、約1時間でほぼ満管状態となっていたことから、本来の機能をフルに発揮できるよう放流施設としての整備を進める必要があることを改めて実感！！**

< 今回も、治水施設が効果を発揮し、浸水被害を軽減！！ >

【寝屋川北部地下河川集水エリアでの被害想定（今回豪雨）】

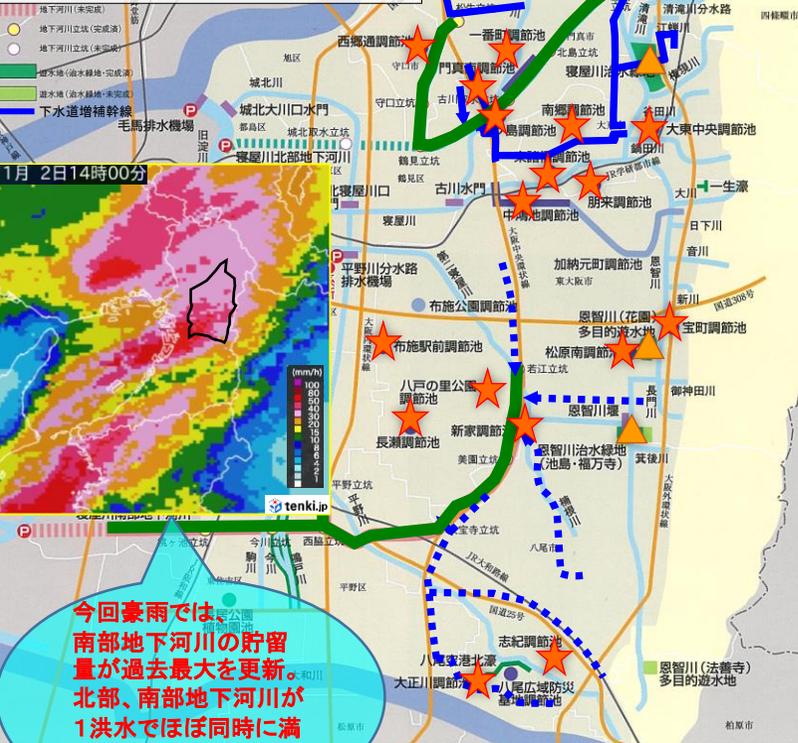
【河川施設貯留状況（内水施設） 貯留事例】

寝屋川流域図

【流域内 最大時間雨量・日雨量】

- ・第二寝屋川（工営所本部：大阪市）
45mm/h 総雨量82mm（11月2日）
- ・恩智川（恩智川治水緑地：東大阪市）
38mm/h 総雨量86mm（11月2日）

※その他、観測地点においても同程度の降雨を観測
（流域一様に同規模の降雨が発生）

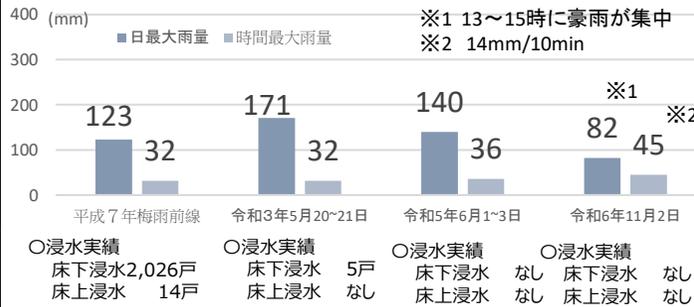


今回豪雨では、南部地下河川の貯留量が過去最大を更新。北部、南部地下河川が1洪水でほぼ同時に満管状態まで貯留されることになった。

※ 簡易シミュレーションでの試算による。ただし、流域対応施設、外水施設の浸水被害軽減効果は対象外。



【流域内での降雨と被害（令和6年11月2日時点）】



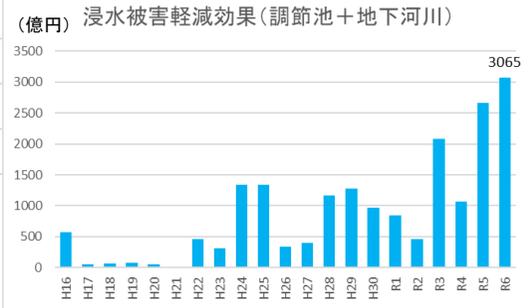
【施設整備量】

H7豪雨時点 供用済貯留量
 地下河川 約14万m³
 流域調節池 約3万m³

R3末時点 供用済貯留量（現時点も同様）
 地下河川 約89万m³
 流域調節池 約61万m³



【これまでの浸水被害軽減効果（想定）】



**H16年以降の総効果額は、
☆1兆8,638億円を突破！！☆**

【令和6年11月2日の施設貯留量 約113.9万m³（供用済全貯留量 529.3万m³）】

【外水対策:13.6万m³】

【内水対策:100.3万m³】

- ▲：恩智川治水緑地（11.9万m³）
- 寝屋川治水緑地（0.3万m³）
- 花園多目的遊水地（0.7万m³）
- 打上川治水緑地（0.7万m³）

- ：地下河川 82.6万m³
（北部：25.9万m³、南部：56.7万m³）※共に約96%貯留！！
- ★：調節池 17.7万m³